

## 【実践報告】

# 教育実習Ⅳ実践報告

広島文教大学教育学部

教育学科 教授 石原 義文 教授 笹原 豊造 准教授 猪川 優子

## 1 はじめに

教育実習Ⅳは、中学校・高等学校教員免許状取得のための必修科目である。教育実習Ⅴ・Ⅵ（本実習）に臨むにあたり、教育実習生としての確かな心構えと教育実践力を養うことを目標とする。本実習に向けての心構えを学修する中で、自らが取り組むべき課題を明確にしていく。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、当初予定していた「広島大学附属中・高等学校」および「広島大学附属東雲小・中学校」での研究大会参加が中止となった。その代替措置として、学内での集中講義を実施した。

## 2 実習の概要

### （1）国語科

国語科では、対面とオンラインを併用して学内実習を実施した。実習会場は模擬授業室とICT教育実践演習室を利用し、Teamsでの同時開講・録画も行った。内容は以下の通りである。

#### 〈ガイダンス〉

本年度の実施内容についての説明および、教育実習の心構えなどについての指導を行った。

#### 〈事前学修〉

昨年度広島大学附属中・高等学校で開催された研究集会の資料をもとに、これからの教育および国語教育の在り方について学修した。また、観察実習の手引きをもとに、授業観察の視点や観点について学修した。

#### 〈学内実習①〉

○昨年度の公開授業「「カメレオン」（チェーホフ）」（中学2年）の資料をもとに、「生徒が立てた問いから授業を構成する」ことについて学修した。その際、受講生自身も問いを立てたり、板書を再現したりする活動を通して、学習者・指導者双方の立場で実践的な学修を行った。

○本学附属高等学校国語科所属の光石千夏教諭を迎え、国語の授業についてのレクチャーを受けた。事前の質問をもとに、講演、授業資料の提示、質疑応答などが行われた。

○東京学芸大学次世代教育研究推進機構の21CoDoMoSから配信されている公開授業を視聴し、グループで授業分析を行った。単元名は「七夕～文化的行事を文学としてたどる」（中学2年）である。

#### 〈学内実習②〉

○文学的文章「走れメロス」と古典「おくのほそ道」の授業について、グループワークを取り入れて検討した。

○詩の授業の在り方について考え、「木琴」（鳴門教育大学附属中学校1年）の教育実習学習記録をもとに教育実習生の授業検討を行った。

コーディネーター：広島大学附属中・高等学校教諭 西原利典先生
①「書くこと」(中1)：広島大学附属三原中学校教諭 西村尚久先生
②「走れメロス」(中2)：福山市立城南中学校教諭 渡邊博之先生
③「おくのほそ道」(中3)：鳴門教育大学・四国大学名誉教授 世羅博昭先生

〈事後学修〉

○実習で学修した内容を振り返り、自分の授業に生かしたい点について検討し、グループワークで意見を共有した。

## (2) 英語科

英語科では、授業実践では必ず必要なスキル習得を精選して、それらを集中してトレーニングすることとした。

活動	指導内容
事前指導	英語教育の動向・小学校英語との効果的な接続など
スキル別 ワークショップ	<p>I Classroom English 現在、授業で可能な限り英語を使用するのは、時代の流れである。基本的な表現はマスターする。</p> <p>II 音声指導の基礎と音読指導 英語のリズム、弱化 (weakening)、短縮 (contraction)、脱落 (elision)、連結 (linking / liaison) などを理解し、音声指導の基礎的知識を修得する。</p> <p>III 発問の仕方 授業は発問で成り立っている。英問英答が主であるが、簡単な内容ばかり尋ねる傾向に陥らないように注意する。深い思考、深い学びを意図する場合には、日本語で質問して日本語で答えることも考慮する。</p> <p>IV Oral Introduction 音声中心の授業へと転換する手がかりとなる。読むこと、書くことに偏重しがちな授業を、継続的にoral introductionを行うことで音声への興味を維持する。</p> <p>V コミュニケーション活動 (Communication Activity) コミュニケーションを活発にするために、種々の活動が考案されています。現場に出ると、参考図書やネットで情報を収集して、授業に活用する。</p>
事後指導模擬授業	ワークショップで習得したスキルを取り入れた模擬授業を行った。

## 3 成果と課題

今年度の実習は、学内での集中講義にて実施された。例年の、広島大学附属学校での研究集会参加とは異なり、受講生主体の実践的な学修が多い実習であった。今後、本実習に向けた、より系統的学修の充実を図りたい。